



電子メディアの有効利用 —より早く & より適切な情報を入手する方法—

設楽 真理子

I. はじめに

病院図書室における「電子メディア」とは何でしょうか？ここでは「電子メディア媒体で入手できる学術情報」と考えます。

1900年代以前には、出版される学術雑誌すべてに目を通すことが可能なほど、雑誌そのものが少なかった時代もありましたが、その後の科学技術の発展につれ、学術雑誌は莫大なものとなりました。このような情報の氾濫に対処するために、1900年代前半にはISIのCurrent ContentsやNLMのIndex Medicusのような索引誌や抄録誌が「情報の所在」を調べるためのツールとして登場してきました。これらの索引誌や抄録誌は、原著論文が掲載されている一次資料（学術雑誌そのもの）の目次だけ、あるいは抄録までを集めたもので、二次情報（二次資料）と呼ばれています。Current Contentsをせっせと手めぐりして、自分に必要な情報の「所在（出典情報と概要）」を見つけ出し、次は図書室に行ってその論文の掲載されている雑誌を読む、著者に別刷りを請求する、あるいはコピーの依頼をする、というのが最近（10年位前）まで普通におこなわれていた「学術情報の入手方法」でした。

II. 効率の良い情報の探し方—ツールの選択

看護の分野に関して情報を探すときには、何

を重要だと考えますか？私は「より早く・より適切な」情報の入手が重要であると考えます。なぜなら、臨床看護に従事される方は常に時間が制約されているので「一刻も早く適切な情報」を入手することが重要と思うからです。

探すためのツールはさまざまありますが、国内文献は、「医学中央雑誌」か「JMED」、海外文献は「MEDLINE」か「Cinahl」というデータベースが良く使われます。どのデータベースもCD-ROM、オンライン、Webなど複数の電子メディアで提供されています。データベースの中身（コンテンツ）が同じであっても、これらのメディアの違いは得られる情報に対して少なからず影響を与えます。たとえば、CD-ROMはDiscの形で提供されるので更新頻度はあまり高くありません。つまり「ある雑誌の最新号を調べたい」というような要求にはあまり適していないツールです。

Webを含めたオンラインデータベースの場合は、ホストコンピュータにデータがロードされた瞬間から、その情報にアクセスできるので、最新情報を探すのに適しています。更新頻度も逐次更新、毎日更新、毎週更新と頻繁におこなわれています。Webで提供されるデータベースは、HELPやInformationも常時参照できるので、誰でも簡単に使うことができます。もちろんWeb版データベースの機能は製品によって異なるので、Webであれば何でも良いということにはなりません。機能的に良く出来ているシステムには、Ovid Online (MEDLINE、Cinahl等を

搭載)、PubMed (MEDLINEと関連情報を掲載)等があげられます。国内文献のWebシステム (医中誌Web、enjoy JOIS等) は開発途上の製品もあり、現時点では十分でないところもあるようです。コンテンツから選ぶときのチェックポイントはだいたい、表1のようになります。これらをじっくり見比べた上で、余裕があれば複数のデータベースを選んでおくと、収録範囲の違いなどからより広範な情報を得ることができます。

表1. Web上で提供される主要データベースのコンテンツ比較

	医中誌Web	JMED	MEDLINE
搭載システム	医中誌Web	Enjoy JOIS	Ovid Online
収録開始年	1994~	1981~	1966~
収録対象	国内文献	国内文献	海外文献
収録分野	医学(看護・歯学を含む)		医学・薬学・歯学・看護学
収録対象資料	逐次刊行物	逐次刊行物・会議録他	ほぼ逐次刊行物
収録対象誌数	2,400	8,200	3,900
更新頻度	毎月	毎月	毎週
年間更新件数	28万件	30万件	43万件

Ⅲ. 効率の良い情報の探し方一事前の準備

次は「何を検索するか」です。そこで、最低限準備していただきたいことがあります。列挙すると、

- ① 得たい情報の種類 (臨床文献か総説かガイドラインか会議録か etc.)
- ② 得たい情報の言語 (日本語か英語か)
- ③ 得たい情報の範囲 (ここ1年なのか、最近5年位なのか、過去10年分なのか)
- ④ 絶対はずせない検索語は何か? (たいていは疾病名、薬剤名、処置名、医療器具名など)
- ⑤ それらの同義語や別表現は? (海外文献の場合は英語で!)
- ⑥ その他の条件は? (対象はヒトか動物か、健常人か患者か、年齢は? 性別は?) などなどを書き出してみることで。

これらのうち、データベースを問わず大問題になるのが、検索に使う言葉です。ここで取り上げているデータベースはどれも長い文章を一発で検索してはくれません。どうしても必要な語句を抜き出し、その組合せを使って、検索テーマに最も適したデータを探す形になります。

ここからもう1ステップ頑張っていたいただきたいのが、⑤同義語探しです。ひとくちに「乳がん」といっても実際には、さまざまな表現があります。多くのデータベースでは著者が記述したタイトルと抄録をそのまま収録しているので、一種類の表現だけで安心することはできません。特に英語の場合だと、Breast Cancer, Breast Tumor, Breast Neoplasmなどのさまざまな表現 (同義語) があるので、なかなか思うように見つけ出せない場合があります。それ以外にもイギリス英語とアメリカ英語の綴りの違いや、単数形・複数形の違いも考慮しなければなりません。これだけのことを全部考慮したとしても、自分が思いつかなかった言葉だけを使っているデータは、見つけ出せないわけです。このような事態を打開するために、ここで取り上げている4つのデータベースは、すべてControlled Keyword (統制索引語) を採用しています。これは著者が使っている言葉とは別に、その論文の主題を表す語句をデータベース作成機関が特に選んで付与しているということです。それらの語句は、通常ある概念に対しては一定の表現を使うように決められ (Controlされて) います。例えば、MEDLINEの場合では、「がん」に対してはCancerでもTumorでもなくNeoplasmsという語句を使います。つまりMEDLINEでは、「乳がん」についてはLung Neoplasmsという語句を使うと、少なくともMEDLINEの作成機関が「これは乳がんに関する文献である」と判断したデータは漏れなく検索できるわけです。このような統制索引語は「シソーラス」という辞書に搭載されています。医学用語シソーラス (医中誌Web、JMED)、JICST科学技術用語シソーラス (JMED)、Me-

dial Subject Headings : MeSH (MEDLINE) と いったタイトルの冊子が図書室で見つかるならば、ばらばらめくってみると、適切な検索語を選ぶ一助になります。Webのシステムでは、検索しながらこれらのシソーラスを参照できるようになっているものもあります。

Ⅳ. 次なるステップ—一次情報の入手

さて、さまざまな困難を乗り越えて、どうやらここに必要な情報があるらしい、という「情報の所在」が掴めました。さあ、ここからはどうしましょう？ じつは、電子メディアの普及は二次情報データベースだけではなく一次情報にも及んでいます。ここ数年「電子ジャーナル」という言葉が冊子体のジャーナルと同じように語られるようになってきました。これらの電子ジャーナルの長所は、二次情報の場合と同じく1)速報性と2)検索機能の向上です。速報性に関しては、物流段階の時間のセーブだけではなく、in print段階での情報公開もあります。コンテンツとして、印刷物では考えられなかった音声・動画などのマルチメディア情報を含んだ電子ジャーナルも発行されはじめています。

電子ジャーナルはそれ独自でもある程度の検索機能を備えていますが、二次情報データベースからリンクさせる形での利用も多く見られます。例えば、Ovid Onlineでは、MEDLINEやCinahlの検索結果から、ワンクリックでOvidのもつ電子ジャーナルコレクションJournals@Ovidへジャンプすることができます(注1)。最近では、Ovid外部の出版社サイトへ論文単位でリンクしていくOpenLinksという機能もリリースされています(注2)。PubMedの検索結果から出版社サイトへリンクできることもよく知られていると思います。

このような電子ジャーナルはうまく活用すれば、「情報の所在の検索」から「一次資料の入手」までを一気におこなってしまうことができます。多くの電子ジャーナルは、参照文献リストから他の電子ジャーナルやデータベースへリ

ンクしていく機能も持っているので、関連情報もまとめて入手することができるわけです。図書室の開館時間にとらわれず、自分のPCから必要な情報を得られるということは「より早く」というNeedsに確実に応えるものになるでしょう。

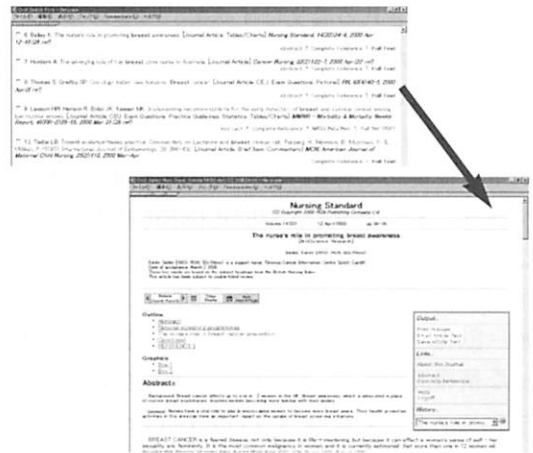


図1. Ovid CinahlからJournals@Ovidへ

Ⅴ. より適切な情報を素早くGet—EBM情報源の活用

二次情報データベースを駆使して、広く情報の所在を集めました。電子ジャーナルを活用して必要な一次情報も全部集めました。さて…それを全部読んで検討している時間がない！ という事態に遭遇されたことはありませんか？ 今のところ、電子ジャーナルは海外出版社のものが多いので、原著論文をすばやく入手できたとしても、英語で書かれたフルペーパーを何本も読むのは大変です。そこで、とっておきの情報源があります。なんと、選りすぐりの論文について、A4一枚程度にコンパクトに内容を要約したジャーナルが発行されているのです。米国内科学会が1991年から発行している“The ACP Journal Club”というジャーナルがそれです。内科以外の領域についても、1995年から“Evidence Based Medicine”というタイトルで

姉妹誌の発行がおこなわれています。これらは、著名な一次雑誌に掲載された個々の論文を、同じ専門分野のドクターが一定の形式でサマライズした構造化抄録を収録しており、その論文の結論だけを容易に読み取ることができます。一次雑誌が出版されてから要約するわけですから、速報性が高いということにはなりません。ここに要約される論文はすべて、一定の基準を満たした優れたものであるということが出来ます。Ovid Onlineでは、これらの情報源をEBMR - Best Evidenceというファイルセグメントで提供しており、MEDLINEと組み合わせることで使うことによって、MEDLINEの検索結果にQuality Filterをかけられる、と説明しています(注3)。最近注目されている「根拠にもとづく医療—Evidence Based Medicine : EBM」の代表的な情報源である、Cochrane 共同体のシステムティック・レビュー (The Cochrane Database of Systematic Reviews) やDARE (Database of Abstracts of Reviews of Effectiveness) も同じように利用することができます(注4)。

さらに、これらを出典としてQ&A方式に治療の介入の利益・不利益をコンパクトにまとめたClinical Evidenceを使うとさらに集約された情報を入力することができます。Clinical EvidenceはBMJ Publishing Groupから発行されている定期刊行物で、Ovid Online上で電子Bookの形態で提供されています(注5)。看護の分野では文献よりも教科書に頼ることがまだ多いと聞きますが、Primary Care Online、Lippincott Manual of Nursing Practiceなど著名な看護学のテキストも電子媒体で提供されはじめています(注6)。これらのコンテンツはプリント版と同じですが、目次のブラウジング、キーワード検索、複数のテキストのマルチ検索、関連情報へのリンク等を駆使することにより「より早く・より適切な」情報への到達を助けてくれるものものです。

二次情報データベース、電子ジャーナル、EBM情報源、電子ブック、これらは皆、独自に存在しているのではなく、相互に関連しています。特にWeb上ではリンクという形で実際につながりあい、必要な情報を提供するネットワークを形成しています。それらをすべて網羅するパッケージ製品も開発途上にあります(Ovid on Call)。電子メディアの形成する新しい臨床情報網に、あなたも飛び込んでみませんか？

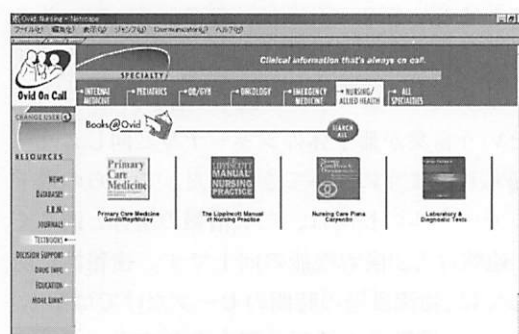


図2. Ovid on Call—新しい情報パッケージ

参照サイト

- 注1 : <http://www.ovid.com/products/fulltext/journals/journals.cfm>
- 注2 : <http://admin.ovid.com/openlinks/index.html#index>
- 注3 : http://www.usaco.co.jp/ovid/ovid_fg_acp.html
- 注4 : http://www.usaco.co.jp/ovid/ovid_fg_coch.html
http://www.usaco.co.jp/ovid/ovid_fg_dare.html
- 注5 : http://www.usaco.co.jp/ovid/ovid_fg_cline.html
- 注6 : <http://www.usaco.co.jp/ovid/b@o.htm>